中南米は既に 2020 年トランプ大統領再選に向けた選挙戦の試験場

Latin America Is Already Trump's 2020 Presidential Campaign Testing Ground

米国大統領はメキシコとの緊密な関係を保ち、ベネズエラへの軍事介入を回避し、米州のパートナーや同盟国への脅しを控えるべきである。

By Michael Shifter, President of the Inter-American Dialogue
The New York Times April, 2019

中南米では、2020 年米国大統領選に向けた選挙戦が既に展開されている。2016 年大統領選でトランプ氏をホワイトハウスに導いた 4 つの重要な問題は、既に中南米政策に反映されており、2 つの選挙戦略と並行して実施されている：全国のトランプ支持基盤には、移民、麻薬、貿易問題を訴え掛け、フロリダ南部の有権者には、キューバとベネズエラ問題を訴え掛けている。

2015 年に大統領選への出馬を発表して以降、トランプ氏は、大幅な政策変更を公約した移民と貿易問題に関して、メキシコを代理のスケープゴートに仕立ててきた。米墨間の国境の壁の建設に関するトランプ氏の強硬な姿勢は、ハードコア支持者を団結させ、興奮させる象徴ともなっている。

しかし、最近トランプ大統領が脅している国境閉鎖が実施されれば、両国経済が大きな打撃を受け、米国の最も重要な外交関係とも言える米墨関係に取り返しのつかないダメージを与えることになろう。トランプ氏は、共和党議員からの強い要請により、4 月 4 日にはその脅しを取り下げたが、「1 年間の猶予を与えよう。麻薬の流れが完全に、或いは大幅に止まらなければ、メキシコからの輸入に、特に自動車に追加課税をかける」と言い換えている。

メキシコの大統領、アンドレス･マニュエル･ロペス･オブラドール（AMLO）は、北米自由貿易協定（NAFTA）の近代化への支持や、中米からの難民を米国の裁定が下るまでメキシコ国内に滞在させるという許可等、これまでトランプ氏の要請に便宜を図ってきた。しかし、国境閉鎖への動きは、ロペス･オブラドール氏の忍耐の限界を試すことになろう。3 月 29 日には、メキシコのエブラード外務大臣は「メキシコは脅しに基づいて行動することはない。我々は良き隣人である」とツイートしている。

同様に驚くべきことは、米国への大規模な移民の流れを抑えていないとして、トランプ氏が中米の北部 3 国（グアテマラ、エルサルバドル、ホンジュラス）に対する米国の支援を打ち切ると発表したことだ。

トランプ氏が援助を停止し、これらの国々の危機を更に深刻にしようとしているのではないかという憶測もある。そうなれば北に向かう移民が急増し、米墨間の国境の安全保障問題に発展する恐れがある為、大統領の強硬な政策が正当化され、選挙戦の重要なツールとなり得るということである。

トランプ大統領が議会で承認された支援予算を無視する権限を持っているのか、この脅しを実行するのか分からない。しかし、この発表により、米国の要求に全て従ってきたグアテマラ、ホンジュラス、エルサルバドルの政府は当惑している。

グアテマラとホンジュラス政府は、トランプ氏のご機嫌を取るかの如く、イスラエルの大使館をエルサレムに移転する方針を検討している。特に、トランプ氏の発表は、エルサルバドルのブケレ新大統領には侮辱的である。ブケレ新大統領は、最近のワシントン訪問で、ベネズエラのマドゥーロ氏を支持していた前政権の方針を覆し、ベネズエラへのより強硬な政策を示し、台湾との国交を絶って中国と国交樹立したことを見直すと述べ、トランプ政権を喜ばせた。更に、エルサルバドルへの米国の援助は、実際、同国からの移民数を減らす効果があることが証明されている。

麻薬問題に関しても、トランプ大統領は選挙戦に備えて政治的基盤を強化しようとしている。コロンビアのドゥケ大統領は最近トランプ氏と会談し、コカの生産量の増加を抑えるために米国が支援する戦略を追求すると約束した。しかし、それだけでは十分ではなかった様だ。ドゥケ大統領は、トランプ氏が報道陣に「ドゥケ大統領はいかに麻薬を根絶するかを語ったにも拘わらず、ドゥケ政権発足後、以前より多くの麻薬が米国に流入している。彼は何もしていない」と述べたと聞いて、唖然としたという。コロンビアの週刊誌の“Semana”は「友達だと思っていたのに（With Friends Like These）」という題でこのエピソードを報道している。

コロンビアの大統領に対しては、もっと好意的な応対をすべきである。ドゥケ大統領は、隣国ベネズエラの政権への圧力を掛ける上で、最も信頼できるトランプ政権のパートナーである。ドゥケ政権は 130 万人を超えるベネズエラからの難民への対応に苦労している。米国の大統領選が過熱してくると、近年、米国―コロンビアの二カ国間協力の分野が拡大してきたにも拘わらず、両国の関係が再び麻薬問題に集約される危険性もある。

トランプ政権のベネズエラとキューバに対するアプローチは、全国的な関心事である移民、麻薬、貿易問題とは異質である。正にフロリダ南部に焦点を当てた国内政治が、外交政策を形成する主たる要素となっている。イデオロギー的には、トランプ氏というより、寧ろ国家安全保障担当補佐官のジョン・ボルトン氏やフロリダ州のマルコ・ルビオ上院議員の影響力が大きい。

トランプ政権が米州、欧州の同盟国と共に実施するベネズエラの独裁政権に対するプレッシャーは、困窮するベネズエラに必要な民主的移行を促す支援となってきた。しかし米国のベネズエラ問題は、ボルトン補佐官が幾度も繰り返して述べているように、トランプ政権のキューバの政権交代への希求とリンクしている。中南米ではキューバの政権は敬遠されているが、中南米諸国はベネズエラよりキューバにはより慎重である。殆どのラテン･アメリカ人は、過去 60 年に亘る米国の対キューバ政策は、オバマ前政権による 2 年間の制裁緩和を除き、失敗であったと思っており、キューバに対する如何なる追加制裁にも強く反対している。

トランプ氏や政権の高官による「全ての選択肢がある」、また「ニコラス･マドゥーロと取り巻きのアドバイザー達に、どこか良い海岸で長く静かな引退生活を送ることを願う」というような不適切な発言は、聴衆の喝采を浴びるし、2020 年大統領選の接戦州であるフロリダでの票集めや選挙資金集めには効果的である。しかし、軍事介入の可能性を喚起し、その結果、ベネズエラを巡って作られた広域な同盟関係を弱め、分断するリスクを孕む。

米国の対ベネズエラ政策の主要な資産とも言えるこの同盟関係を維持する為に、トランプ政権は選挙目的の姿勢を見直すべきである。民主党の医療保険やニュー･グリーン･ディール案を攻撃する為に、ベネズエラの「社会主義」という怪物を持ち出すことは、米州における最悪の危機を米国の大統領選挙戦の道具として使うのと変わらない。

2020 年 11 月大統領選が刻一刻と近づく中、政治的な芝居を止めさせることはできない。トランプ氏が再選の為に、中南米の問題を国内のポリティクスに利用することは効果を齎すかもしれない。しかし、中米への支援継続やメキシコとの緊密な関係の維持等の国家の関心を完全に見失わないことは重要である。トランプ大統領は、ベネズエラ問題で築いた広域な同盟関係を維持し、ベネズエラへの軍事介入やキューバの政権転覆を示唆することは控えるべきである。

これらの問題には超党的な支持が必要である。対処を間違うと、今後何十年にも亘って、米国の中南米政策に影響を及ぼすことになろう。

（翻訳 by K. White）